

2022年度宇都宮大学多文化公共圏フォーラム第26回

「奪われたくらし —原発被害の検証と共感共苦(コンパッション)」

出版一周年記念シンポジウム

東京電力福島第一原子力発電所の事故からもうすぐ12年。
揺らぐ被ばく防護基準、住めないふるさと、避難さえも「自己責任」とされる現実。福島原発事故による避難の苦悩や避難先での生活の困難を、新潟県の調査を中心に明らかにする。
誰もがもう一度、「自分ごと」として考えるために——。

2023年

2月23日

(木・祝日)

13:00~16:00

Zoomによる

オンライン開催



奪われたくらし
—原発被害の検証と共感共苦
コンパッション

高橋若菜 編著

藤川賢 清水奈名子 関孔子 小池由佳

なんでこうなっちゃったかな

—当たり前に暮らしたかっただけなのに

揺らぐ被ばく防護基準、住めないふるさと、避難さえも「自己責任」とされる現実。福島原発事故による避難の苦悩や避難先での生活の困難を、新潟県の調査を中心に明らかにする。

誰もがもう一度、「自分ごと」として考えるために——

日本経済評論社 定価(本体3300円+税)

企画運営:宇都宮大学国際学部附属多文化公共圏センター 福島原発震災に関する研究フォーラム

共 催:宇都宮大学国際学部附属多文化公共圏センター

宇都宮大・茨城大・福島大のコンソーシアムによる共同開催

問い合わせ:宇都宮大学国際学部附属多文化公共圏センター

メール takahashioffice.uu@gmail.com (高橋研究室)

電話番号 028-649-5196 (平日10-16時)

申込方法:右のQRコード/以下のURLよりご登録頂くとZOOMリンクが届きます。

<https://us02web.zoom.us/meeting/register/tZcqceisrzkJHt3e-7u9Zvlo7PpytUvqzk1U>



『奪われたくらし—原発被害の検証と共感共苦(コンパッション)』日本経済評論社
2022年3月発行 著者紹介

【第一部・第二部講演】

Wakana TAKAHASHI

高橋 若菜

宇都宮大学国際学部教授
多文化公共圏センター長、福
島原発震災に関する研究フォー
ラム共同世話役

著書『越境大気汚染の
比較政治学』『原発避難と
創発的支援』(共著)他



【第一部講演】

Nanako SHIMIZU

清水 奈名子

宇都宮大学国際学部教授、
福島原発震災に関する研究
フォーラム共同世話役

著書『冷戦後の国連安全
保障体制と文民の保護』
『原発事故被害回復の法と
政策』(共著)他



【第一部講演】

Ken FUJIKAWA

藤川 賢

明治学院大学社会学部
社会学科教授

著書『ふくしま復興
農と暮らしの復権』(共著)
『放射能汚染はなぜくりかえされる
のか』(共著)他



【第二部講演】

Reiko SEKI

関 礼子

立教大学社会学部
現代文化学科教授
著書『新潟水俣病をめぐる
制度・表象・地域』
『”生きる”時間の
パラダイム』他



【第二部講演】

Yuka KOIKE

小池 由佳

新潟県立大学人間生活学部
子ども学科教授
著書『お母さんを
支えつづけたい
—原発避難と新潟の
地域社会』(共著)他



【コメンテーター】

Yayoi HARAGUCHI

原口 弥生

茨城大学人文社会学
部学部長、教授



【コメンテーター】

Takeru ARAKIDA

荒木田 岳

福島大学人文社会学群
行政政策学類教授

プログラム

第一部 原発被害の検証

- ・奪われた平穏なくらし
- ・放射能リスクをめぐる多重基準と軽視
- ・避難生活の苦渋と自己責任化、二次被害としての差別

高橋若菜 (宇都宮大学)
藤川賢 (明治学院大学)
清水奈名子 (宇都宮大学)

第二部 共感共苦(コンパッション)～社会正義の底上げをめざして

- ・ヒロシマ・ナガサキ・ミナマタからフクシマへ
- ・バルネラビリティへのまなざし
- ・おわりに 生活剥奪のエビデンス

関礼子 (立教大学)
小池由佳 (新潟県立大学)
高橋若菜 (宇都宮大学)

コメンテーター

原口弥生 (茨城大学)、荒木田岳 (福島大学)